

道徳「ぼくの名前呼んで」 6年：学級通信より

道徳で教材「ぼくの名前呼んで」の学習をしました。聴覚障害のある両親をもつ太郎が、友だちに両親の障害のことを言われ、ショックを受ける。その思いを、話すことのできない両親に「ぼくの名前呼んでよ」と訴えてしまうが、子どもを思う親の気持ちを父親の落ち着いた手話から受けとめ、最高の生き方をしている両親を誇りに思い始める太郎を通して考える教材です。

現在、ソフト面とハード面で様々な取り組みが施され、障害のある人、高齢者の方や子ども、だれもが安心して生活できる社会に近づいていると思います。ですが、まだまだかくれたところでの偏見や差別はなくなっていないのが現実です。豊かな社会の実現に向け、一人一人が自分ごととして考えていくことが大切だと思います。

今回の価値項目は「家族愛」でした。児童の道徳ノートには、楽しいこともしんどいことも一緒に家族で受けとめていくことを大切にしたい。家族のコミュニケーションは大切なことで、伝えないと分からないこともある。思いやりを感じる素直な心が大切。自分がどんなに家族に支えられているか、自分が家族のためにこれからできることをしていきたい。など、思いを書いてきてくれました。

核家族化が進み、親戚どうしのつながりも疎遠になりがちな現在ですが、家族の思いのこもった行為やめくもりのある思いやりに価値を見いだせる人生を、子どもたちには歩んでいてほしいです。

社会の中で、相手の思いを謙虚に受けとめたり、素直な気持ちで関わっていったりすることなどは当然大切なことですが、まずは家族で話し合い、普段の生活の中でのかわりについて、ふり返ってみてもいいかもしれませんね。

道徳「おばあさんのおむかえ」 4-1：学級通信より

家族の大切さについて考えることができました。授業の最後に、家族への感謝の気持ちを手紙に書きました。そして、「一言付け加えて渡してね。そして、できたら感想を一言道徳ノートに書いてもらって来てね。」と言っていたら、お忙しいところ、道徳ノートに感想を書いてくださった方がたくさんいました。温かい言葉を一言頂くことで、子ども達は更に家族への感謝の気持ちが深まったことでしょう。

ご協力ありがとうございました。

☆孫が、あんなことを言ってくれるなんて、うれしいことです。もらった手紙は、大事にとっていおきます。

☆「今日のご飯なあに。」と言って、いつも楽しみにしてくれてありがとう。「おいしい。」って言って食べてくれてありがとう。たくさん食べて大きくなってね。

☆孫たちが、大きく育っていくのが一番の楽しみです。ありがとう。

☆私は、手紙をわたす時に、きんちょうしました。でも、喜んでくれて、私もうれしくなりました。

☆感謝の気持ちを伝えることははずかしかったり、てれくさかったりすると思うけど、とても嬉しかったです。家族には、めいわくかけてもいいよ。

☆これから、弟を大切にしていきたいです。姉より

☆年のはなれた兄弟だけど、時にはけんかしたりもするけど、いつまでも仲良くおたがいの事を思いやれる関係でいてほしいと思います。

☆お手紙ありがとうございました。これからも笑顔でおるよ。ありがとう。

☆お母さんが、「ありがとう。とてもうれしいよ。」と言ってくれました。そう言ってくれたから、私もうれしくなりました。

校長：学級通信には、道徳の学習の様子が伝わってくる記事がよく書かれていていつも嬉しく思っています。家族で道徳心について考えるきっかけになるといいですね。

訂正：前号「みなみっ子」のNo.37をNo.36にしていました。ごめんなさい。